

6.28fri—7.21sun

休館日：7月1日〔月〕、8日〔月〕、16日〔火〕

野口雅俊

NOGUCHI Masatoshi

易雅静

YI Yajing

8.2fri—8.25sun

休館日：8月5日〔月〕、13日〔火〕、19日〔月〕

阪中隆文

SAKANAKA Takafumi

ヤマモト Koujirou

YAMAMOTO Koujirou

8.30fri—9.23mon

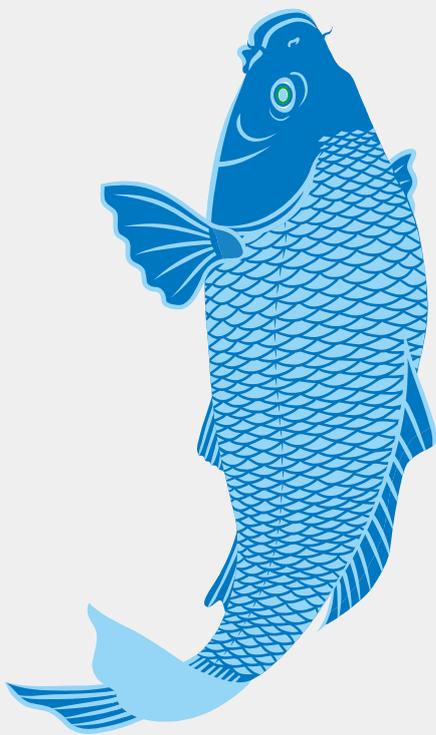
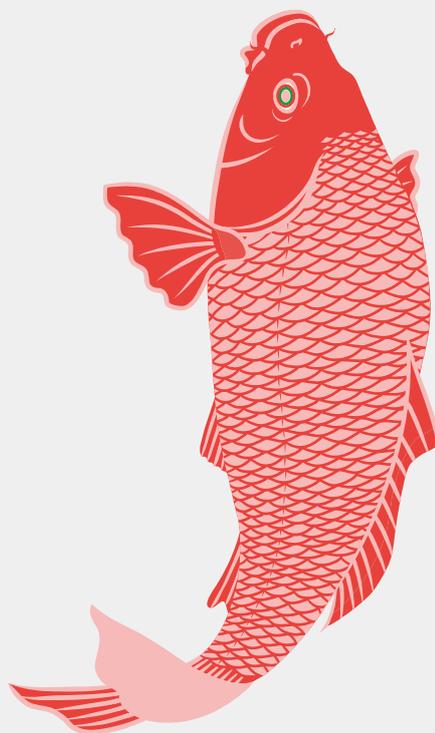
休館日：9月2日〔月〕、9日〔月〕、17日〔火〕

東亨

AZUMA Ryo

泉桐子

IZUMI Touko



BankART Under 35 2024 BankART KAIKO

横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F

時間 | 11:00～19:00 入場料 | 400円 (カタログ2冊付き) 中学生以下及び障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名無料

35歳以下のアーティストを紹介する個展シリーズ「BankART Under35」は2008年からはじまり、これまで55組のアーティストを紹介してきました。今回は公募式で、島袋道浩、村田真、細淵太麻紀の3名による審査の結果、6名の個展が決定いたしました。このプログラムでは、個展に併せて小冊子のカタログを刊行し、入場した方にお渡しします。展示を通してそれぞれ1つ以上「作品が売れる」、「プレスに批評が出る」、「次展示(仕事)に選ばれる」という目標を掲げ、作家たちの次なるステップアップを目指した展覧会となります。ぜひみなさまのご来場をお待ちしております。

主催：BankART1929
共催：横浜にぎわいスポーツ文化局

BankART Under 35 2024

1

6月28日[金]～7月21日[日]

11:00～19:00

休館日:7月1日[月]、8日[月]、16日[火]

野口雅俊



photo by Magma Maria

photo by Tiberio Sorvillo

鶴見の中華料理屋で育った影響が僕の作品にはあり、あの多文化、移民と労働者の街で育ったことを財産に思うこともあります。循環していくもの、植物のサイクル、気候、小銭、そして労働のテーマはそれを反映していると思います。そんな鶴見は鉄鋼業が衰退した影響を受けて、綺麗に掃除されたベッドタウンのような街になりました。今回の展示は、ブルース、生命力、循環するもの、そして去っていくものにまつわる作品です。ゆるやかにまとめて「季節」ともいえます。

のぐち・まさとし | 1988年東京生まれ。家族のルーツを日本と中国に持ち、横浜市鶴見の中華料理屋で育つ。2013年ベルリンへ拠点を移し、2021年よりイタリア・ボルツァーノ在住。掃除道具、植物、料理などを素材に、目に見えにくい対象の生存と適応力に焦点を当て人間や地球の疲労をユーモアで表現する。近年、AR/GE Kunst (ボルツァーノ)、Bolzano Art Week (ボルツァーノ)、Magma Maria (オフエンパッハ・アム・メイン ドイツ)、FuturDome (ミラノ)で展示。



会場 | BankART KAIKO (〒231-0003 横浜市中区北仲通 5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F) みなとみらい線「馬車道」駅、2a 出口のエスカレーターをさがり、右手の赤煉瓦の建物 KITANAKA BRICK & WHITE North にお入りください。

料金 | 一般400円 (カタログ2冊付き) 中学生以下及び障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名無料 ※本展覧会に併せて、各作家の個人カタログを刊行。1冊200円 [税込] A4変形判 / 24ページ (予定)

●オープニングレセプション | 各会期初日の19:00～20:00

【お問合せ】 BankART1929 info@bankart1929.com TEL 045-663-2812

2

8月2日[金]～8月25日[日]

11:00～19:00

休館日:8月5日[月]、13日[火]、19日[月]

阪中隆文



遊戯的な行為と身体を手がかりに、暗渠、ビルの天井裏、古墳、空き地など、都市や建築の周縁的領域にアプローチを試みている。今回は展覧会場で「地面に足をつけない」というルールを自身に課し、登山ロープや日用品などで空間を構成する。展示空間は宙吊りとなった身体との関係のもと、全く新しい感じにアフォードし始める。また自身の育児経験から制作された過去作品なども展示。乳幼児のためのスペースあり。

さかなか・たかふみ | 1989年東京生まれ。多摩美術大学映像演劇学科卒業。主な展覧会に「バ育児のパロールン」(Art Center Ongoing, 東京, 2024)、「駐館藝術家阪中隆文計画成果発表」(關渡美術館、台北, 2023)、「wandering in atopia」(国際芸術センター青森、青森, 2020)、「スーパープレイ」(Token Art Center, 東京, 2019)、「引込線/放射線」(埼玉, 2019)など。



3

8月30日[金]～9月23日[月・祝]

11:00～19:00

休館日:9月2日[月]、9日[月]、17日[火]

東亨



photo by Kazuto Kobayashi / OUTBOUND

photo by SAITO Kenta

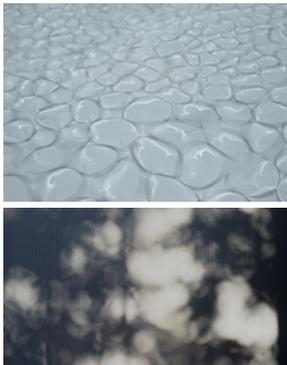
2011年より路上で採集した銅板やブリキ、錆びた鉄といった都会の漂流物を素材として造形物「てっかり」を制作する。「てっかり」は香具師(露天商)の隠語で金物や灯りを示す。

あずま・りょう | 1988年三重生まれ。主な展覧会に「現代社会の漂流物」(花器工芸 汀、大阪, 2022)、「素材側から」(うつわノート、埼玉, 2021)、「東亨+ハタノワタル展 沌」(gallery yamahon、三重, 2021)、「Crafty」(NOTA_SHOP、滋賀, 2019)、「忘草」(gallery NAO MASAKI、愛知, 2018)「香具師の標具」(OUTBOUND、東京, 2017)、等。



photo by KUMAGAI Yukiharu

易雅静



材料の観察と応用は、私の創作の出発点である。「内なる風景」は、私が長い間取り組んできた制作テーマである。制作の中で、私は常に「自然」の感覚を探求してきた。この感覚は、自然

が私にもたらす心地よい印象、その要素が絡み合っ生まれる。今回は、セロハンテープや編み袋、樹脂などを使って「自然」にあるかすかな痕跡を捉え、「自然」と「不自然」のバランスを取りながら、「自然」を再構築したい。

イ・ガセイ | 1990年中国広西に生まれ。2018年多摩美術大学大学院修士課程環境デザイン学科修了。インスタレーション、平面、映像を中心に作品を展開。これまで数々の展示を開催。2019年 SICF20 東京 Spiral、2019年個展「内なる風景 - 無を満たす -」東京弘重ギャラリー、2021年個展「内なる風景」中国寧波明写館 meisyakan、2023年個展「一片の荒野を無駄に幻想する」中国北京太和芸術空間。



ヤマモトコウジロウ



photo by Koichi Mitsuoka

たとえば、自分の髪の毛をセメントで固めてみたらどうなるのか。たとえば、一日中歩き続けてしゃべり続けてみたらどうなるのか。気になったことと向き合うとき、通らなくていい道をとことん通ってみるやり方があります。身の回りの物に自分の身体で体当たりしてみても分かります。やってみて、起こったことの顛末をお伝えします。

ヤマモトコウジロウ | 1993年滋賀生まれ。近年の主な活動に、ALTERNATIVE KYOTO サテライト展示「あそこまで」(2021年/山城郷土資料館)、個展「あなたがくれた山本昂二郎」(2022年/TOMO 都市美術館)、自力運送プロジェクト「KOJI LOGISTICS/コジロジ」(2019年～)、夏までライブパフォーマンス「むっちゃ明るい」(2021年～)など。



photo by Koichi Takemura

泉桐子



文章や、日常の中で目にするニュースの中でだれかが口にした言葉を拾い、和紙に墨や膠を用いて物語性のある画面を仕立てています。その短い物語、たった一場面に向き合った人を刺激し、また別の物語が生まれることを願っています。伝統的な素材で「古い」と言われることをあえて選び、かつ好んでそう見えるように制作してきましたが、最近は、平面は平面でも絵画という「一場面」での表現をあえて選んで語ることを、どうやって続けていくのかということ、絵画そのもの、絵画自身の迎える結末や、幸福について考えています。

いずみ・とうこ | 1992年生まれ、神奈川県横浜市在住。2017年武蔵野美術大学大学院修士課程造形学科日本画コース修了。主な展覧会に、「真鴨とシャベル」(個展・GALERIE PARIS/ 横浜、2022)、「三菱商事アート・ゲート・プログラム2021-2022 支援アーティスト6組による新作展」(代官山ヒルサイドフォーラム/東京、2023)、「日本 NIPPONMANIA マニア」(企画展・kunsthaus kaufbeuren/ドイツ、2023)、など。

